

横浜市小学校社会科研究会

6学年部会

研修会記録

第8号

令和6年 3月6日
横浜市小学校教育研究会
会長 濱田 哲也
横浜市小学校社会科研究会
会長 加藤 和之
同 学年部長 金井 伸一

【提案日時】

2月14日(水)

【会場】

都筑小学校

提案 金井 伸一 先生(西富岡小)

司会 鷹野 誠 先生(本牧南小)

記録 坂本 実 先生(川和東小)

◎12月実践について

都筑小 会場

成果・児童自ら問いを見出して発言する姿が見られた。

- ・児童の発言がつながる場面があり、児童が友達の発言をよく聞いて授業がつくられていた。

提案・予想の発言に対してさらに予想の発言があり、教師から事実に戻って考える発問があればよかったのでは。

- ・児童の発言から近代国家について展開されるとより本時目標に近づけられたのではないか。

川和東小 会場

成果・意図的な指名を用いて導入ができていた。

- ・子どもの呟きを拾って教師が全体に広げている姿が見られた。

提案・支出と収入の話から技術の伝播に話がいった際に発問によって深掘りをすれば、より政府の意図に迫ることができたのではないか。

◎今年度の研究のまとめ

- ・一年間の実践と研究会を振り返り、これからの実践の一助にしたい。
- ・誰一人取り残さないための視点1と2を意識して実践してきた。

視点1：子どもが問いや見通しをもち、主体的に学ぶ単元づくり

→単元を見通す学習問題で自分の学び方を決める。

視点2：個を生かし、協働的に学びを深める授業づくり

→単元のふりかえり等で友達の意見からさらに学びを深める。

視点1への手立て

- 1：時間の経過を用いた
- 2：実物資料や想像図にじっくり触れる。
- 3：年表の活用
- 4：予想をカテゴライズして板書に整理する。
- 5：学び方の計画（個の学び方を決定する。）
- 6：ワークシートの活用
- 7：学習計画の中で個人の調べたい内容を実行できる時間を担保
- 8：単元ごとに「歴史を学ぶ意味」についてのふり返し
- 9：個人で決めて進めてきた学び方についてのふり返し

視点2への手立て

- 1： 座席表の見取りと意図的発問による学習内容の焦点化
- 2： 資料提示と意図的な発問によって児童の考えを焦点化
- 3： 授業終盤の教師の発問

魅力ある社会科の授業へ

授業前の見取り→資料提示＋意図的な発問→社会的事象に迫るための発問やふり返りの投げかけ
＋
話し合いをより活発にするために何を話してもよい安心感が得られる教師と児童の関係づくり

⇒次年度の実践に活かしていきたい。

◎意見交換

- ・ 子ども同士で学び合える授業を目指していきたいが、一朝一夕ではないので引き続き、研究会で研究したい。
- ・ 調べ学習について個の学びの設定について来年度も情報共有ができればよい。
- ・ 話し合いと調べ方についてのイメージをもつことが大事だと感じた。タブレットを用いた調べだけでなく、紙資料の活用についても有効性を感じさせたい。
- ・ 次の授業実践の活力となった。
- ・ 普段のコミュニケーションから鍛えることもそうだが、個々の考えを見る時間も必要だと感じた。
- ・ 教科担任制でも学級が違えば、進み方が違う。今年度の実戦では、教科書の内容が多く真似したいと思えた。
- ・ 資料の提示によって子どもが変わることで社会科のおもしろさを感じた。
- ・ 先生が喋りすぎていると子どもが授業から離れていくことを社会に限らずどの教科でも感じた一年だった。
- ・ 学校へ市研で学んだことをもち帰って、他の教員と深められた。
- ・ 調べたことをどう活用するのかを来年度、研究していけたら

講師の先生より

大曾根小学校 校長 宮本 雅司 先生

それぞれの実践の良さを取り出して提案されたことは、普段の子どもたちの良さを活かすことにつながる。子ども達をよくしようという気持ちを大切にしたい学びや一つの問題に向かってみんなで学んでいくことを大切にしたい。その上でも座席表で子どもの考えをどういかに見取っていくことも大事であると感じた。

社会科で子どもたちを育てていくことを意識して来年度も研究を進めてもらいたい。

文責 坂本 実（川和東小学校）